



ごあいさつ

不況期にこそ、 新製品・新技術の早期開発・実用化を

社長 天野 嘉一

2008年秋以降の米国の証券・金融不安の深刻化により、先進国、新興国も含めた世界同時不況と言われる景気後退局面に直面しています。日を追うごとに厳しさを増しており、自動車産業の大幅減産、鉄鋼業の減産、また各業種において今年度業績の大幅な下方修正が相次ぎ、急激な円高による悪影響もあり日本の実体経済が急速に悪化し、出口が全く見えない正に「100年に一度の危機」が各企業の足元を揺るがしています。この状況が回復過程に向かうのは、早くて2010年度後半と言われており、当分は厳しい状況が続くものと覚悟しなければなりません。

当社グループは高い受注残を抱えていたため、主力製品である静止変電機器を中心に高操業を維持することが出来、2008年度連結業績は昨年度には及びませんが、何とか業績が確保出来る見込みです。しかし、この世界同時不況の影響が当社グループにも既に現れてきています。半導体製造装置関連や自動車部品関連事業では受注が急減していますし、主力の静止変電機器もお客様の投資計画の凍結・延期などが相次ぎ、受注高は計画比大幅減という危機的な状況に陥っており、2009年度の操業面、業績面への大きな影響は避けられない状況になっています。

このような厳しい状況下、当社グループで地道に研究開発してきたお客様に喜ばれる新製品・新技術の開発スピードを加速し、早期に実用化して市場に投入していくことが厳しさを乗り越える対応策の一つです。当社グループは今まで製品の全ライフサイクルでの環境負荷低減を目指し、独自技術を駆使して製品のコンパクト化で環境に優しい多くの製品を世に送り出し、お客様からご好評をいただけてきました。今後とも、このコンパクト化をさらに推し進めるとともに、お客様が喜ばれるプラスワンの技術を加え「コンパクト化+ワン」の製品開発を強力に進めてまいります。

今回特集でご紹介する2008年の当社グループの各分野における技術と製品群は、こうした観点から開発を進めてきた成果と考えていますが、まだまだお客様にご満足いただけるレベルには達していないと存じますので、引き続きお客様のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。